

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (経済学)	氏名	山口太郎
論文題目	日本におけるアクセラレーターのスタートアップ支援効果—混合研究法によるプロセスの実証分析—		
(論文内容の要旨)			
<p>本研究は、アクセラレーターによるスタートアップの成長加速効果を日本の文脈で探求している。米国でアクセラレーターの効果が注目されている中、日本ではこの分野の研究が始まったばかりであり、その効果やメカニズムは未だ十分に理解されていない。本研究の主要な疑問は、「日本においても、米国と同様にアクセラレーターがスタートアップの成長を加速できるのか？」である。この問いに答えるため、日本のアクセラレーターを対象に混合研究法による分析を行った。</p> <p>第2章では、アクセラレーターに関する先行研究のレビューを通じて、アクセラレーターとスタートアップ、エコシステム間の関係、選択バイアス問題、および欧米と日本の起業環境の違いが研究の前提となることに焦点を当てる。アクセラレーターの効果とそのメカニズムについての知見を整理し、日本の独特な環境におけるその意義を示す。</p> <p>第3章では、アクセラレーターの支援効果と選抜効果に関する定量分析の結果を示す。アクセラレーターは専門的なレクチャーやメンタリング、ネットワークングの機会の提供を通じてスタートアップの成長を支援するとされるが、選抜による効果の可能性も示唆される。選択バイアスを考慮した分析によりアクセラレーターの効果が単に成長ポテンシャルの高いスタートアップを選抜した結果である可能性が浮上する。</p> <p>第4章では、アクセラレーター参加時期やスタートアップタイプとパフォーマンスとの関連を定量分析し、Resource Based Viewに基づいて解釈する。アクセラレーターの効果が単純に支援によるもの、または選抜によるものではないことが示唆され、設立早期のスタートアップが大きな成長加速効果を受けること、研究開発型スタートアップにもアクセラレーターの支援効果がある可能性が明らかになる。</p> <p>第5章では、定性分析を通じてアクセラレーターによるスタートアップの成長加速プロセスを明らかにする。アクセラレーター、スタートアップ、ベンチャーキャピタルに対するインタビューと質的データ分析により、「正統性」のキーワードが重要であることが判明し、アクセラレーターによる正統性の付与がスタートアップの成長加速に寄与していることが明らかになる。正統性の付与は、創業チームや研究者に対して行われ、新規性の不利益を克服し、資金調達や経営資源の獲得を進めることができる。</p> <p>最終章である第6章では、第3章、第4章、第5章の結果を振り返り、混合研究法による統合を行い、全体的な考察を行う。理論的および実務的な貢献について議論し、研究の限界と今後の研究方向性について提言する。この研究は、日本のアクセラレーターの効果とそのメカニズムを理解する上で貴重な洞察を提供し、実務界にも有益な情報をもたらす。</p>			

(論文審査の結果の要旨)

山口太郎氏が提出した博士論文は、日本におけるアクセラレーターのスタートアップに対する支援効果に関する包括的な研究であり、混合研究法を用いてこのテーマを探求している。この研究は、アクセラレーターが提供する専門的な指導、メンタリング、ネットワーキングの機会が、スタートアップの成長にどのように影響を与えるかを分析している。また、アクセラレーターによる選抜効果と支援効果の区別にも注目し、どちらがスタートアップの成長により重要であるかを評価している。さらに、アクセラレーター参加がスタートアップに正統性を付与し、これが資金調達や他の経営資源の獲得にどのように貢献するかを明らかにした。

まず、アクセラレーターは、創業初期の企業に対し、資金、指導、ネットワークなどのリソースを提供することによって、その成長を加速させることを目的としており、米国でのアクセラレータープログラムの成功例は多数報告されているが、日本におけるその効果についてはまだ十分に研究されていない。山口氏の研究は、このギャップを埋めることを目指し、着実な実証研究によって、特に、アクセラレーターが提供する支援がスタートアップの成長に実際にどのような影響を与えるのか、そのメカニズムを解明している点は、高く評価できるであろう。

第二に、研究方法として、山口氏は、日本における複数のアクセラレータープログラムとそれに参加したスタートアップを対象に、定量的および定性的な研究方法を組み合わせ分析を行っている。定量的分析では、アクセラレーター参加企業と非参加企業の成長指標を比較し、アクセラレーターの効果を評価した。定性的分析では、アクセスが容易ではないアクセラレーター運営者、参加スタートアップ、投資家とのインタビューを通じて、アクセラレーターがスタートアップに与える影響の質的側面を探求して、新たな発見事実を導き出している。

第三に、本研究の結果は、限定付きながら、アクセラレーターがスタートアップの成長に肯定的な影響を与えることを示唆している。特に、アクセラレーター参加がスタートアップに正統性を付与し、これがさらなる資金調達やビジネスチャンスの拡大に繋がるという点を明らかにした。この正統性の付与は、スタートアップが外部ステークホルダーからの信頼と支援を得る上で極めて重要であることが示され、これが経営資源の獲得と持続可能な成長に不可欠であることを裏付けている。

また、アクセラレーターの選抜効果と支援効果の区別についても重要な洞察が得られた。山口氏の研究によると、アクセラレーターによる選抜プロセス自体が既に高い成長ポテンシャルを持つスタートアップを識別するメカニズムとして機能していることが示唆された。しかし、選抜されたスタートアップに提供される具体的な支援もまた、その成長を加速させる重要な要因であることが明らかにされている。

最後に、審査委員会として博士論文としての評価と課題についてまとめておきたい。山口太郎氏の研究は、日本におけるアクセラレーターの効果に関する貴重な知見を提供しており、その点については一定程度の高い評価が可能であると考えられる。

この研究は、アクセラレーターがスタートアップに与える複雑な影響を多面的に捉え、特に正統性の付与がスタートアップ成長においてどのように機能するか、その一端を解明しているといえるだろう。この点において、本研究は理論的および実務的な貢献を果たしている。

一方で、審査会では、山口氏の研究にはいくつかの課題も指摘された。本論文にはいくつかの今後克服されるべき課題が残されている。例えば、アクセラレーターの支援がスタートアップのテクノロジー管理やイノベーション能力にどのように影響を与えるかについては、深く探究されていない。今後の研究では、アクセラレーターの支援がスタートアップの技術開発や製品イノベーションにどのように貢献するかを明らかにすることが求められるだろう。

また、アクセラレーターの効果をより正確に評価するためには、より広範なデータセットと長期的な追跡調査が必要である。特に、アクセラレーター参加後のスタートアップのパフォーマンスを長期間にわたって追跡することで、アクセラレーターの支援が持続可能な成長にどのように寄与するかについてのより深い理解が得られるであろう。

また、理論的課題として言い換えれば、支援効果と選抜効果という実証研究の結果とさらに深く正統性の問題として掘り下げた内容がさらに、どのように要因と効果の関係について系統的に理解可能なのかについては、さらに考察を深める必要があるだろう。最後に示唆された二重の正統性の問題などは、発展的な今後の課題であろうといえるだろう。また、引用されているベースの理論との関係性の整理が不十分な点も指摘された。ダイナミックケイパビリティ、組織学習、RBV、制度論が本研究でどのように操作化がなされているのか、研究を進める必要があるだろう。

さらに、実証研究としての統計解析に関する因果関係の頑健性については、もう少し堅牢なチェックを行う必要があることも指摘を受けた。混合研究方法の中での説明的順次デザインに沿った確からしさの精度を上げる必要がある。

## 結論

山口太郎氏の博士論文は、以上のように多くの課題を残しているけれども、日本におけるアクセラレーターのスタートアップ支援効果に関する重要な洞察を提供している。この研究は、アクセラレーターがスタートアップの成長に与える影響の複雑さを明らかにし、特に正統性の付与が成功の鍵であることを示した。今後の研究では、この基盤の上にさらに構築して、アクセラレーターの効果をさまざまな文脈や条件下で詳細に分析することが期待される。また、アクセラレーターが提供する支援の質と範囲、それがスタートアップのイノベーションと成長戦略にどのように組み込まれるかについての理解を深めることが重要であるだろう。

アクセラレーターの研究は、日本だけでなくグローバルな視点からも重要な意味を持っている。世界中でスタートアップエコシステムが急速に進化する中で、アクセラレーターは重要な役割を果たしている。山口氏の研究は、このダイナミックな

環境において、アクセラレーターがスタートアップの成長とイノベーションに対してどのように貢献できるかについての理解を深めるための一歩となりえるだろう。

さらに、アクセラレーターの運営者、政策立案者、スタートアップコミュニティのメンバーにとって、この研究は実務的な示唆を提供しているといえるかもしれない。アクセラレーターが提供する支援の効果を最大化するためには、プログラムの設計と実施において、スタートアップのニーズと目標に合わせてカスタマイズすることが重要である。また、アクセラレーターの効果を評価し、改善するための継続的な努力が必要でもあるだろう。

山口太郎氏の研究は、アクセラレーターとスタートアップ間の相互作用が持つ複雑さを浮き彫りにした。アクセラレーターがスタートアップの成長に与える影響は、単に資金提供やビジネス指導にとどまらず、スタートアップが外部環境と効果的に関わるための正統性を構築することにも重要な役割を果たしている。これらの洞察は、今後の研究者や実務家にとって重要な資源となるかもしれない。

総じて、山口太郎氏の博士論文は、アクセラレーターの研究分野において重要な貢献を果たした。その結果は、スタートアップ支援の理論と実践の両面において、新たな洞察と方向性を提供している。今後、この研究がさらなる議論と探究の契機となり、スタートアップエコシステムの発展に貢献することを期待し、委員会として挙げた諸課題は、将来に向けた著者の研究の発展方向を示唆したものであって、本論文が現時点において達成した学術的意義ならびに政策的含意をいささかも損なうものではない。よって、本論文は、博士（経済学）の学位論文として価値あるものと認める。なお、2024年2月14日、論文内容とそれに関連した公聴会を開き、試問を行った結果、合格と認めた。

要旨公表可能日： 年 月 日以降